

清水 真希子

法学研究科・教授

【研究】

- ① 座長を務めた商法総則・商行為法研究会が令和4年度に法学教室誌に研究成果を公表したが、それを書籍としてまとめることとなり、その編集に尽力した。同書は近日公刊予定。
- ② 『法律学小辞典』(有斐閣)の改訂に参加し、商法分野の項目の改訂に携わった。
- ③ Elgar社から公刊予定の“Concise Encyclopedia of Asian Law”に、日本の商法を紹介する項目を執筆した。同書は現在編集段階だが、まずはオンラインで公刊されたのち、書籍が公刊されると聞いている。
- ④ ウィーン大学と京都大学の法学部が共催したセミナー“Sorgfalt in der Lieferkette - Grundlagen”において、“Corporate Sustainability Due Diligence and Sustainable Investments: Companies at the intersection of two mechanisms to address sustainability issues”というタイトルで報告を行った。
- ⑤ 上記④にも関係するが、企業のサステナビリティに関する責任について関心を深め、研究を進めている。その関係のシンポジウムやセミナー等に積極的に参加した。

【教育】

- ① 1年生向けの演習「学問への扉」では、「社会における法」と題して授業を行った。1年生にも理解しやすい社会的な問題を取り上げて広い意味での法的な視点から検討させた。前年度までの経験を踏まえ、取り上げるテーマや議論させる内容を学生のニーズに合わせて変更した。
- ② 学部授業「商法2(総則・商行為)」では、この分野の通常の解説に加え、商法総則・商行為法に関して行った研究成果を取り入れて、この分野の現代化に向けた諸問題について講義した。
- ③ 学部授業「商法3」において保険法について講義した。網羅性よりも重要なポイントの理解を深めることを重視し、また一部で双方向授業を取り入れた。
- ④ 学部演習では、春夏学期に民事法分野に関連する現代的なテーマを取り上げて論文等の読解を行ったうえで、秋冬学期に学生が各自で行う論文執筆を指導した。授業の進め方に関していくつかの工夫を行い、学生の主体的参加を引き出すことができた。
- ⑤ 大学院の演習では、学生各自に取り組むテーマを設定させ、そのうえで研究を進めていく方法を指導した。
- ⑥ 博士前期課程2年の学生の修士論文執筆を指導した。

【管理運営】

総長補佐(人事労務オフィス員)
入試委員会委員
研究推進室委員
ファカルティ・ディベロップメント委員会委員

【社会貢献】

特になし